

タイルとホコラとツーリズム

8月14日(木) — 24日(日) 11:00~19:00

*月曜日はお休み / 金曜日は20:00まで / 最終日は18:00まで

出品作家 | 谷本 研 / 中村 裕太 会場設営 | studio 森森

主催 | 「タイルとホコラとツーリズム」実行委員会

協力 | Gallery PARC / 東山アーティスト・プレースメント・サービス(HAPS) /

みずのき美術館 / 一般財団法人たじみ・笠原タイル館

Gallery PARC
GRAND MARBLE



Illustrated by Ken Tanimoto

展覧会について | About

京都の街角を歩いた際、不意に地蔵菩薩や大日如来などを祀ったホコラを目にすることがあります。それらの多くはコンクリートや石積みの基礎の上に木造の社を持つものですが、そのしつらえにタイルづくりを取り入れたものもしばしば見受けられます。今も街角に残るホコラには、それらが今日まで長く地域に受け継がれ、祀られてきた信仰の対象であることや、コンクリートやタイルづくりのホコラには、それらが今日的な都市の様相を取り入れながら受け継がれてきたであろう歴史の変遷とともに、タイルという建材の持つ清潔さとホコラの持つ神聖さが無縁ではないだろう事などが想像されます。

本展は特徴的な表現活動続ける2名の美術家、谷本研と中村裕太が、京都市内で目にするホコラ(路傍祠)の生態系に着目し、それぞれ「タイル」と「ホコラ」をポイントに取り上げながら、地域における「ツーリズム(観光)」の視野などから考察する試みです。

京都市立芸術大学大学院造形構想専攻修了後、アートとその周縁に関わりながら企画活動を行うとともに、観光ペナントの収集研究者として知られる谷本研(たにもと・けん / 1973~)は、独自のフィールドワークにより市内中心部のホコラから三十三所を厳選し、その巡礼ルート編集のプロセスを通じて、「聖と俗のはざま」に思考を巡らせます。

2011年京都精華大学芸術研究科博士後期課程修了し、「建築工芸」という視点からタイル・陶磁器などの理論と制作を行なう中村裕太(なかむら・ゆうた / 1983~)は、街角で見かける内装タイルで装飾された「タイルホコラ」に注目し、建築・工芸・民俗の観点からのリサーチをもとに、路傍で採取したタイル片を用いた盆棚を会場内に組み上げます。

会場は市内のホコラマップや三十三所のミニホコラ、タイルによる盆棚、ペナントや法被などの関連グッズで埋め尽くされ、まるでタイルとホコラをめぐる巡礼の観光案内所となります。また、会期中の8月16日・17日には実際に現地を巡る『ホコラ三十三所巡礼ツアー』が、8月23日には京都の地蔵信仰や地蔵盆の歴史をもとに、「信仰」の対象をどのように「観光」の視点で展開するかを取り上げるクロージング・トーク「信仰を観光する」を開催します。

折しも地蔵盆の時期、「タイル」と「ホコラ」という一見関わりの少ないテーマに取り組む本展では、身近な京都の見どころがちな小さなスポットに焦点をあてることで、そこから広がる新たな都市空間への視点を提案します。

出展作家略歴 | C.V

谷本 研 Tanimoto Ken

1973年 神戸生まれ、滋賀在住。京都市立芸術大学大学院造形構想専攻修了。アートとその周縁に関わりながら企画活動を行う。代表作に「デカダン秘宝館」(1996 / ギャラリーココ)、「当世物見遊山」(1999 / お宿吉水)など。2002年からは大津市仰木をフィールドに「地蔵プロジェクト」を展開中。2003年「新開地アートブックプロジェクト」や、2007年より福祉施設「みずのき」のアートプロジェクトにも関わる。デザインや漫画も手掛け、『プリコラージュ・アート・ナウ 日常の冒険者たち』(2005 / 国立民族学博物館)や「Dan Graham: Beyond」(2009 / MOCA) 図録などに漫画を執筆。観光ペナントの収集研究者として知られ、著書に「Pennant Japan」(PARCO出版)がある。

中村 裕太 Nakamura Yuta

1983年 東京生まれ、京都在住。2011年京都精華大学芸術研究科博士後期課程修了。博士(芸術)。博士論文「郊外住居工芸論—大正期の浴室にみる白色タイルの受容」。京都精華大学・京都造形芸術大学非常勤講師。「建築工芸」という視点からタイル、陶磁器などの理論と制作を行なう。最近の展示に「六本木クロッシング2013展:アウト・オブ・ダウト—来たるべき風景のために」(2013 / 森美術館)など。またapplied arts(応用芸術)としての工芸を作り手の視点から読み解き、その制作の方法を探っていく「APP ARTS STUDIO」という教育プログラムを運営。
<http://nakamurayuta.jp/>
<http://appartsstudio.tumblr.com/>

展示作品 | Works * T=谷本、N=中村

T-01 ホコラ三十三所巡礼案内所

ホコラ巡礼に先立つ観光案内所。神前幕、法被、ペナントなどがあしらわれ、ホコラをめぐる旅の楽しさを感じさせる。

T-02 ホコラ観光案内板

谷本研のフィールドワークによる市内各所のホコラ所在地を示した案内板。このうち赤はホコラ三十三所に選ばれたもの、緑はその中のタイルホコラを、その他は三十三所には選ばれなかったが、様々な姿をした無数のホコラ。

T-03 三十三所ミニホコラ

市内のホコラから谷本研が選んだ「ホコラ三十三所」のミニホコラ。各番号はマップや観光案内板の数字に対応している。お賽銭をいただくと、後日それぞれのホコラに谷本が責任を持ってお届けします。

N-01 納涼盆棚観光

中村裕太がこれまでに路傍で拾い集めたタイル片が結わえられた竹組の盆棚。タイルホコラへのリサーチから得た思考・感覚が手がかりに、「建築と工芸」や「民俗学と民芸」といった中村の興味のフィールドをひとつの空間に具現化させる試み。かつて何かの用を持っていたタイルが、再び異なる用を持って全体(建築)の一部となり、盆という時間をギャラリーにつくり出している。

関連イベント | Ivent

ワークショップ「ホコラ三十三所巡礼ツアー」

市内中心部からセレクトした三十三所のホコラを、お盆時期の2日に分けて徒歩で巡ります。参加の方には記念ペナントを進呈します。

<Aコース(南行き)> 8月16日(土) 13:00~16:00

<Bコース(西行き)> 8月17日(日) 13:00~16:00

各コース定員15名・参加費500円・小雨決行・荒天中止
*詳しくはスタッフまでお問合せください。

クロージングトーク「信仰を観光する」

京都の地蔵信仰や地蔵盆の歴史をもとに、「信仰」の対象をどのように「観光」の視点で展開するかなど、アートと人類学の関係性にも踏み込んだトークイベント。

日時 ■ 8月23日(土) 15:00~17:00

定員 ■ 30名 * 入場無料 / 予約不要

講師 ■ 師 茂樹 [花園大学文学部准教授・仏教学]

菊地 暁 [京大文学部人文科学研究科助教・日本民俗学]

【コーディネーター】

佐藤守弘 [京都精華大学デザイン学部教授・視覚文化論]

